令和５年度 芸術科「書道Ⅰ」シラバス	単位数	学年・学級	使用教科書
	２単位	第１学年１～９組　書道選択者	書Ⅰ（38／光村／書I／705） 光村図書

１　講座のねらい（目標）

書道の幅広い活動をとおして、書に関する見方・考え方をはたらかせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目ざす。

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。

(2) 書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりすることができるようにする。

(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書をとおして心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

２　授業の内容と学習法

芸術科「書道Ⅰ」の内容は「表現」と「鑑賞」に大別され、両者は相互に密接な関連を図って展開し、広く書に関わる資質・能力を育成することとしている。

(1)「表現」は「漢字仮名交じりの書」「漢字の書」「仮名の書」の三つの分野から構成されている。「漢字仮名交じりの書」では、言葉の選定、意図に基づく構想、漢字と仮名の調和を図るとともに、表現の工夫を重ねながら作品を練り上げていく。また、「漢字の書」「仮名の書」においては、古典の名跡をもとに習う臨書活動を中心に展開していく。古典の書風を直感的にとらえつつ、書体・書風と用筆・運筆との関わりを理解し、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけていくようにする。「表現」においては、意図に基づく作品の構想と表現の工夫、完成作品に至るまでの学習過程を振り返り、自己課題を確認しながら次の学習活動へと展開させていきたい。

(2)「鑑賞」は表現されたものの特性、表現効果、価値などを美に対する感受性や知的理解の面から味わうことである。「書道Ⅰ」においては、書の表現の方法や形式、多様性などについて理解したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりしていく。生徒一人ひとりが感じ取った作品や古典の印象を言葉で表現し、他者に伝えあったりする言語活動の充実を図るとともに、その書の美をもたらす根拠や価値を考えていく。

３　評価の観点

知識・技能	書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。
思考・判断・表現	書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

資料や用具の準備片付けを含む学習活動に取り組む態度、制作作品やワークシート等の提出物、テスト内容から総合的に評価します。

４　学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	備　考
一学期	書道で学習すること 書写から書道へ 用具・用材 姿勢・執筆 漢字の書の学習 漢字の変遷とさまざまな書体 一　楷書の学習 １　どの楷書がすき？ ２　唐の四大家 ■孔子廟堂碑■九成宮醴泉銘 ■雁塔聖教序■顔氏家廟碑 ３　北魏の書 ■牛橛造像記■鄭羲下碑	4 5 6	書道の学習を始めるにあたり、書の特質や学習の全体像を把握します。 用具・用材について理解し、姿勢や執筆法・用筆法について知り、書道の学習における基本的な事項を理解します。 さまざまな楷書古典を鑑賞し、そのよさや美しさ、書風を直感的にとらえ、作品の価値や根拠について考えます。漢字の楷書の古典に基づく学習により、書の多様な表現の可能性にふれます。 代表的な楷書古典を鑑賞し、それぞれの古典について、作者や時代背景などの知的理解を図ります。 各古典を字形の特徴と用筆・運筆との関わりからとらえ、臨書活動をとおして、意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につけます。	書写の学習を振り返り、芸術科書道と国語科書写の関連を確認します。 各自の個性を生かすことのできる古典を選択して集中的に学習します。

	二　行書の学習 1　蘭亭序 2　争坐位稿 3　日本の行書 ■風信帖■三筆、三跡の書	7	さまざまな行書古典を鑑賞し、書風を直感的にとらえたうえで、行書の特徴について理解します。 代表的な行書の古典について、字形の特徴と用筆・運筆との関わりからとらえ、臨書活動をとおして、意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につけます。	実用性と芸術性という行書の二つの側面を理解します。
二学期	三　篆書の学習 ■泰山刻石 四　篆刻の学習 五　拓本と碑について 拓本を採ってみよう 六　隷書の学習 ■曹全碑 七　草書の学習 ■真草千字文 八　漢字の書の制作・鑑賞 古典を生かした創作	9 10 11 12	篆書の学習は篆刻と関連づけて指導することで、学習の幅を広げ深めることができます。隷書については文字の点画構造が楷書に近く、双方の書体への理解が深められます。 漢字の書の学習を進めるにあたり、書体の変遷や拓本についての理解を図ります。 隷書については文字の点画構造が楷書に近く、双方の書体への理解が深められます。 草書は「仮名の書」の学習での理解を深めることにもつながります。これらの五つの書体を扱うことで、総合的に書についての理解を深めることにつながりますが、「書道Ⅰ」では基礎的な楷書や行書の学習を充実するようにします。 漢字の書の制作では、意図に基づく構想と表現の工夫について学習していきます。	詩句や古典の選択により各自の個性を発揮します。
三学期	仮名の書の学習 1　仮名の学習 ■成立と種類 ■基本的な筆使い ■平仮名　■変体仮名 ■連綿 2　蓬萊切の鑑賞と臨書 3　高野切第三種の鑑賞と臨書 4　構成を学ぶ ■継色紙 ■寸松庵色紙 ■升色紙 5　仮名の書の制作 漢字仮名交じりの書の学習 1　漢字仮名交じりの書とは 2　創作する ■好きな言葉を書こう ■あなたは、どの書が好き？ ■表現の幅を広げよう 3　漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞	1 2 3	我が国独自の仮名の書の芸術的な味わいや雰囲気を感じ取り、その成立過程や仮名の種類、字源について理解していきます。 仮名の書特有の用具・用材と基本的な筆使いを学びます。平仮名の単体、変体仮名、連綿の筆使いに慣れ、基本的な用筆法を習得します。 名筆の鑑賞をとおして、そのよさや美しさを感じ取り、書風を直感的にとらえ、作品の価値やその根拠について考えます。また、臨書活動をとおして、筆使いに慣れ、基礎的な表現の技能を身につけます。 仮名の書の制作（散らし書き）をとおして、意図に基づく構想と表現の工夫について学習していきます。 仮名の書の制作（散らし書き）をとおして、意図に基づく構想と表現の工夫について学習していきます。 これまでに学習した漢字および仮名の古典の学習をもとに、その表現を応用した漢字仮名交じりの書の制作を行います。 自らの感動や思い・感慨に応じて詩文を選定します。また、作品の表現形式を決めた上で、詩文を選定する場合もあります。 意図に基づいて構想し、用具・用材、全体の構成など工夫し、漢字と仮名の調和の方法を考えて表現していきます。表現の工夫にあたっては、名筆や現代の書の表現を参考として表現を深めていきます。他者との意見交換をとおして、表現を練り上げ作品を完成させていきます。	仮名独自の美しさを感得します。 1年間の学習のまとめとして自己を主体的に表現することに取り組みます。